

科目名	化学Ⅱ	英語科目名	Chemistry Ⅱ
開講年度・学期	平成 26 年度・通年	対象学科・専攻・学年	機械工学科2年, 電気電子創造工学科2年, 建築学科2年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	履修単位
担当教員	森下 佳代子	居室 (もしくは所属)	電物棟3階(一般科)
電話	内線 181	E-mail	morisita@小山高専ドメイン名
授業の到達目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標 (JABEE)	JABEE 基準
1. 各元素の特徴が示せること。		③	
2. 電池および電気分解の反応が説明できること。		③	
3. 単純な有機化合物の基礎的な性質が説明できること。		③	
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1-3; 中間試験および期末試験で 60%以上の得点により達成とする。			
評価方法			
中間試験および定期試験の平均により評価する。			
授業内容			
<p>第 1 回 第Ⅲ章 第 1 節 ①元素の分類と性質、②水素・酸素とその化合物、</p> <p>第 2 回 第Ⅲ章 第 1 節 ②水素・酸素とその化合物、③希ガス</p> <p>第 3 回 第Ⅲ章 第 1 節 ④ハロゲンとその化合物</p> <p>第 4 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑤硫黄とその化合物</p> <p>第 5 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑥窒素・リンとその化合物</p> <p>第 6 回 第Ⅲ章 第 1 節 ⑦炭素・ケイ素とその化合物</p> <p>第 7 回 気体の実験室的製法と気体</p> <p>第 8 回 【前期中間テスト】 教科書 pp. 130~157 (予定)</p> <p>第 9 回 第Ⅲ章 第 2 節 ①アルカリ金属とその化合物</p> <p>第 10 回 第Ⅲ章 第 2 節 ②2 族元素とその化合物</p> <p>第 11 回 第Ⅲ章 第 2 節 ③亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物 (その 1)</p> <p>第 12 回 第Ⅲ章 第 2 節 ③亜鉛・アルミニウム・スズ・鉛とその化合物 (その 2)</p> <p>第 13 回 第Ⅱ章 第 3 節 ①酸化と還元 (1 年の復習)</p> <p>第 14 回 第Ⅱ章 第 3 節 ②電池</p> <p>第 15 回 第Ⅱ章 第 3 節 ③電気分解</p> <p>【前期定期試験】 教科書 pp. 94~115, 158~173 (予定)</p> <p>第 16 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <銅></p> <p>第 17 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <銀></p> <p>第 18 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <鉄></p> <p>第 19 回 第Ⅲ章 第 3 節 ①遷移元素とその化合物 <クロム, マンガン></p> <p>第 20 回 第Ⅲ章 第 3 節 ②金属イオンの定性分析 (その 1)</p> <p>第 21 回 第Ⅲ章 第 3 節 ②金属イオンの定性分析 (その 2)</p> <p>第 22 回 金属イオンの分離</p> <p>第 23 回 【後期中間テスト】 教科書 pp. 174~200 (予定)</p> <p>第 24 回 第Ⅳ章 第 1 節 ①特徴と分類</p> <p>第 25 回 第Ⅳ章 第 1 節 ②化学式の決定</p> <p>第 26 回 第Ⅳ章 第 2 節 ①アルカンとシクロアルカン</p> <p>第 27 回 第Ⅳ章 第 2 節 ②アルケンとアルキン</p> <p>第 28 回 第Ⅳ章 第 3 節 ①アルコールとエーテル</p> <p>第 29 回 第Ⅳ章 第 3 節 ②アルデヒドとケトン</p> <p>第 30 回 総合演習</p> <p>【学年末定期試験】 教科書 pp. 202~228 (予定)</p>			
キーワード	非金属元素、金属元素、有機化合物、酸化還元反応		
教科書	高等学校 改訂 化学 I (第一学習社)		
参考書	セミナー化学 I (第一学習社)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	化学 I		
現学年の関連科目	なし		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
<p>1. 授業方法は講義を中心とし、時々課題を課す他、小テストを行う。授業の進度を見ながら実験を行う。</p> <p>2. 原則として、中間試験、定期試験未受験者は再試験を認めないものとする。</p>			
シラバス作成年月日	平成 26 年 3 月 31 日		